

提出日：平成 24 年 9 月 16 日

東京大学大学院人文社会系研究科
次世代人文社会学育成プログラムによる海外派遣 帰国報告

<派遣生>

言語文化学科言語学専修課程 3 年

松倉 昂平

派遣形態：平成 24 年度夏学期推奨プログラム

<研究課題名>

トルコ語と周辺諸言語との言語接触

<派遣先での活動>

派遣先：トルコ アンカラ アンカラ大学トメル トゥナル・ヒルミ支部

出発日：平成 24 年 7 月 29 日 帰国日：平成 24 年 9 月 2 日 総日数：36 日

派遣日程：

7 月 29 日	アンカラ到着
7 月 30 日～ 8 月 28 日	アンカラ大学トメル トゥナル・ヒルミ支部の中級 1 クラスにてトルコ語の研修
8 月 29 日	イスタンブール到着、派遣生全員による報告会
8 月 30 日～ 8 月 31 日	イスタンブールにて文化遺産の見学
9 月 2 日	帰国

<主な成果>

研究計画概要：アラビア語やペルシア語をはじめとする周辺の言語からの大量の語彙の借用と、トルコ共和国建国後 1930 年代以降の言語改革運動それぞれについて、トルコ語の文法・語彙にどのような影響が与えられたのか調査する。今回の派遣を通じては、アラビア語やペルシア語由来の語彙、西欧語由来の語彙、近現代の新造語、それぞれに対する語感の差異を理解することが望ましく、またトルコ語史料の参照も必要となるが、これらを実現する第一の助けとなる語学力を向上させる。

達成された成果：第一の目的であるトルコ語の学習において、1 ヶ月間という短い滞在期間ではあったが、一定の成果は得られた。到着直後にはトルコ語の聞き取り力に対する自信を全く失っていたが、語学学校や街角でもホームステイ先の家庭内でも常にトルコ語に浸

る環境に置かれて、聞き取り力を大きく向上させることができた。また語学学校には自分と同じようにトルコ語を必要としている研究者の方々も通っていた。こうした方たちや言語学に理解のある学校の先生方との交流によって、トルコ学・トルコ語学に関するトピックの多さを学ぶことができた。トルコ人の知人に対してはごく簡単なものながらたびたびインタビューを行った。高齢な方にはトルコ語の方言や言葉の世代差について尋ね回り、ある方には難解なオスマン語を読んでいただき理解度を計り、ある時には同義語とされる2語以上の語の間の意味の差を尋ね、またある単語がトルコ語固有の語彙か外来語かを推測してもらう語源意識の調査を行った。このような実地調査から様々な研究テーマを発掘できたと思う。

今後の研究展望：言語改革運動以降定着した新造語の意味や改革期に新しく導入された接尾辞に対する語感を詳しく調べたい。今回簡単な調査を行い、言語調査を行うために必要な語学力は日常会話レベルを超えると実感した。学問的な内容を話せるようになるまでさらなるトルコ語の学習が必要である。今後は、今回得られた人脈を保ち語源意識などに関する聞き取りを進め、より具体的なテーマを探っていきたい。